



教育目標「学ぶ心 自主の心 思いやりの心」

校訓「勤労 自主 誠実」

学校だより

4月号

令和6年4月16日

八王子市立元八王子中学校

校長 山口 徹

ホームページ

<http://hachioji-school.ed.jp/mthtj/>

「新年度のスタート」

校長 山口 徹

4月8日に行われた入学式は、例年になく満開の桜の中、多くの保護者にご来賓の皆様にご臨席いただき盛大に行うことができました。感謝申し上げます。新入生118名を迎え、全校生徒349名で令和6年度をスタートすることができました。新入生にとっては、小学校とは違って学習内容がより難しくなったり、委員会や部活動など生徒が主体的に取り組む活動が増えることで不安や期待が大きいと思います。しかし、新入生歓迎会では、生徒会を中心に2・3年生が中学校生活をわかりやすく説明するなど、新入生の不安を少しでもなくすように頑張っている姿が見られ、新入生も少しは安心したのではと思いました。また、2・3年生が進級したことで、自覚をもって行動してくれていることにも成長を感じ嬉しく思いました。

さて、令和6年度を迎え、始業式や入学式で生徒たちにこの一年間の目標の話をしました。昨年度に引き続き『自分を成長させること』『思いやりの心をもつこと』を目標としました。ただし、これからの予測不可能な社会を力強く生きていくためには、「自ら考え、主体的に行動する力」が必要とともに本校の生徒の成長している姿を見て、勉強をはじめいろいろな学校行事にもっと主体的に取り組ませることが必要と考え、2・3年生には前の2つの目標に『自主の心をもつこと』を加えた3つの目標としました。この目標を達成させるために生徒たちには、『自制心(感情や行動をコントロールする心)とやり抜く力(最後まであきらめずに取り組む力)を身に付けること』を意識して、学校生活を過ごすように話しました。また、教職員にも「令和6年度の学校計画」を示し、元八王子中学校をより良い学校にしてくために教職員一同、一致団結して教育活動に取り組んでいきますので、学校の教育活動へのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。「令和6年度の学校計画」は、3・4面に掲載しましたのでご覧ください。

八王子市では、今年度も生徒たちが安心して学校生活が送れるように「子ども見守りシート」を作成しました。本校でも、この「子ども見守りシート」を活用して生徒が安心して学校生活が送れるようにしていきます。子どもの様子がいつもとは違う、友達から嫌なことを言われたりされたりしていると子どもから聞いたなどお気付きの点があれば、「子ども見守りシート」に記入して学校に提出してください。直接学校にご連絡いただいても構いません。保護者と地域の皆様と協力して生徒を見守って行ければと考えていますのでご協力をよろしくお願いいたします。「子ども見守りシート」は、学校のホームページに掲載いたします。また、担任や各教科担当、部活動の顧問以外でもスクールカウンセラーや直接関わりのない先生でも生徒の相談に対応して行きます。昨年度と同じスクールカウンセラーが、水曜日を基本として9時から17時まで生徒や保護者の相談に対応しています。この様なことで相談していいのかな?と思ったことでも構いませんので、是非多くの生徒や保護者にご利用いただければと思います。保護者からの相談は、スクールカウンセラーの勤務日時に学校にお電話(042-624-3201)ください。スクールカウンセラーの勤務日以外でも、養護教諭西原までお電話いただければスクールカウンセラーに内容等をお伝えいたします。多くの生徒と保護者のご利用をお待ちしています。

今年度も学校と保護者との連絡手段として、Home&Schoolを活用していきます。まだ登録を済まされていないご家庭は、早目の登録をお願いいたします。今年度も、Home&Schoolで出欠席の連絡を受け付けたり、多くのお知らせを発信していきます。

令和6年度 学校経営計画

八王子市立元八王子中学校
校長 山口 徹

1. 教育目標

- 学ぶ心 ○ 自主の心 ○ 思いやりの心

2. 校訓

- 勤労 ○ 自主 ○ 誠実

3. めざす学校像

- ◎ 生徒一人一人が成長する学校 ○ いじめのない学校
○ 地域を大切にする学校 ○ 教職員が教育活動に責任をもって取り組む学校

4. めざす生徒像

- ◎ 主体的に学習に取り組む生徒 ○ 自ら学校や地域の行事に積極的に取り組む生徒
○ 自分や他人を大切にする生徒 ◎ 自制心とやり抜く力をもった生徒

5. めざす教師像

- ◎ 常に向上心をもって学びあう教師 ◎ チームとして成長する教師
○ 生徒・保護者・地域から信頼される教師 ○ 教育公務員として自覚と責任をもった教師

6. 中期的な目標及び達成させるための方策

重点目標1「生徒一人一人の学力の向上」

方策

① 基礎・基本的な学力の定着

- ・グループ学習など協働的な学びや繰り返し学習及び習熟度別少人数学習(数学・英語)の実施。
- ・分かる授業のために情報機器(タブレット、電子黒板など)を効果的に活用する。
- ・小テスト・定期考査・各種の学力調査の結果をもとに個に応じた指導の実施。
- ・生徒が自主的に家庭学習に取り組めるように家庭学習の手引きの見直しとミライシードを活用する。
- ・ボランティア等を活用した放課後(年20回程度)や長期休業中(5日間)の補習教室を実施する。
- ・小中一貫カリキュラム(元八王子小・式分方小)の実施。

② 学習意欲の向上

- ・全教育活動において、体験や問題解決的な学習を取り入れ自制心ややり抜く力を身に付けさせる。
- ・できたことを褒めることで自己肯定感を高め、主体的な学習態度を身に付けさせる。
- ・キャリア教育を通して、夢や希望を実現させる気持ち(意識)を高める。
- ・学校司書による読み聞かせなどを通して、10分間の朝読書の定着。
- ・学校司書との協働による図書館を活用した授業の実施。
- ・発問の工夫とともに対話的な授業を取り入れ学習意欲を高める。
- ・SDGsを総合的な学習の時間等の柱として、現代社会における課題に目を向けさせ一人一人に課題解決の方法を考えさせる。
- ・郷土学習を通して、身近な地域の課題から学ぶことの必要性に気づかせる。
- ・週1回の特別支援委員会で、支援を必要とする生徒の手立てを検討し、全教員で共通実践をする。

③ 授業力の向上

- ・全教師による年1回以上「主体的・対話的で深い学び」の授業研究と協議会を9月までに実施し、授業改善を図る。

- ・校内研修「生徒の実態に応じた指導法の改善、生徒指導の在り方、ICT 機器の効果的な活用方法、指導と評価の一体化、特別な支援を要する生徒への理解」の実施。
- ・年 2 回(6 月・12 月)生徒による授業評価の実施。
- ・9 月に授業評価と学力調査(全国・都・市)による授業改善プランの作成と実践。
- ・学習規律の定着。(チャイムと同時に授業の開始と終了)

重点目標2「生徒一人一人を大切にした教育活動の充実」

方策

① 人権教育の充実

- ・特別の教科「道徳」を中心に、生命尊重・人権尊重の精神を育む。
- ・週 1 回の学校いじめ対策委員会の実施、年 3 回の生徒へのいじめアンケート調査、年3回のいじめに対する授業、年3回の教員対象としたいじめ研修を通して、いじめに対して絶対に許さない態度で早期発見・早期対応に努める。
- ・二者、三者面談の実施、スクールカウンセラーの活用を通して、教育相談を充実させる。
- ・特別支援学級との交流活動を通して、思いやりの心を育てる。
- ・生徒の模範となるように生徒の人権を尊重するとともに生徒と教員とであいさつ運動を実施。

② ルールとマナーの徹底

- ・年度当初に生徒に授業や学校の決まりを守ることの大切さを説明し、自制心ややり抜く力を身に付けさせる。また、生徒のよりよい成長を願って、学校と保護者との協力体制をつくる。
- ・生徒と共に学校のルールを見直し、授業規律をはじめルールの意義を理解させ、自ら判断できる力を養う。
- ・授業開始・終了時のあいさつを通して、マナー教育を充実させる。
- ・落ち着いた学校生活を送るために教室の整理・整頓をし、学習環境をつくる。
- ・問題行動に対しては、教職員間の連絡を密にし、的確な把握と迅速な対応を図る。

③ 体験活動の充実

- ・学校行事や部活動を通して、達成感や成就感をもたせるとともに自制心ややり抜く力を身に付けさせる。
- ・地域の行事に参加させることで、地域社会の一員としての自覚をもたせるとともにボランティア精神を育む。
- ・近隣小学校の補習教室への参加を通して、学ぶことの大切さや思いやりの心を育てる。

④ キャリア教育の充実

- ・職場体験や職業講話を通して、社会に貢献することの大切さや働くことの意義を理解させる。
- ・高校の先生の話を書く会やキャリアパスポートを活用して、主体的な進路の選択と将来設計を考えさせる。
- ・地域の人材を活用することで、自分の将来をより身近なものとして考えさせる。

⑤ 安心・安全な学校

- ・月 1 回の安全指導や避難訓練を通して、基本的な知識や技術を理解し、自ら判断して行動する力を身に付けさせる。

⑥ 不登校傾向のある生徒への手立て

- ・不登校傾向のある生徒に対して、Web 会議ツールを活用し面談や学習サポートの実施。

その他

- ・保護者や地域の方に学校の教育活動を理解してもらうために多くの情報を発信する。
- ・地域運営学校・青少年対策委員会と連携し、地域の教育力を学校教育に生かす。
- ・教職員が、地域の活動に積極的に参加し連携を深める。